

構造見学会 見所ポイント

(仮)南久米パッシブハウス 構造見学会

2022年6月12日(日)

終了致しました

アーキテクト工房Pureは創業以来**高性能住宅以外**は建築していません。そしてこれからも**高性能住宅しか建築しません**

なぜそこまで高性能住宅に拘るのか。

それは、お家は**最も快適な場所**であると思うからです

そんなお家を暑くない、寒くない我慢しなくてもいいように。

それは実は当たり前のこと。当たり前のことを当たり前。

その為にお家の**“性能”**は譲れません

今回開催される構造見学会では

そんな**“性能”**について重要な**「断熱」** **「気密」** **「換気」**の

3本柱のうち**「断熱」** **「気密」**について見て頂ける見学会となっております。

○ **「断熱」**とは

断熱とは文字通り**「熱」**を**「断つ」**ことです

お家における断熱とは、中と外の熱の伝わりを断つことを意味します

お家の断熱がしっかりしていると、季節を問わずに快適な環境が

作りやすくなります。

夏には外からの強烈な日射を防ぎつつ室内で冷やした空気を外には伝えません

冬には冷え切った外気から室内の暖めた空気を守ります

○ **「気密」**とは

気密性能が高いと言うことは、お家に**隙間**が無いと言うこと

隙間があると、そこから空気が入り出てしまいます

窓や玄関、壁や床、壁と屋根、エアコンや水道などの配管などなど

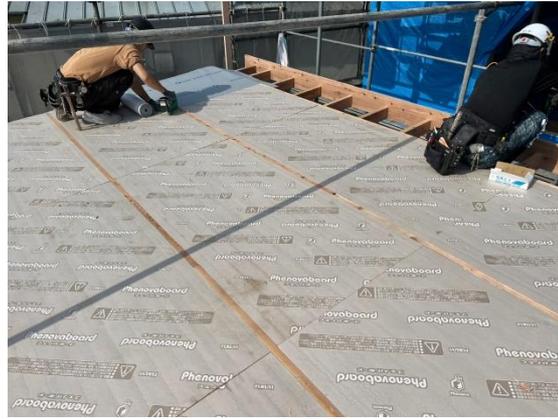
お家には隙間が出来やすいポイントが沢山あります

そのいらぬ隙間を限りなく少なくしていくと気密性能が高まり

冷暖房によって快適な室内環境を保つことが出来ます

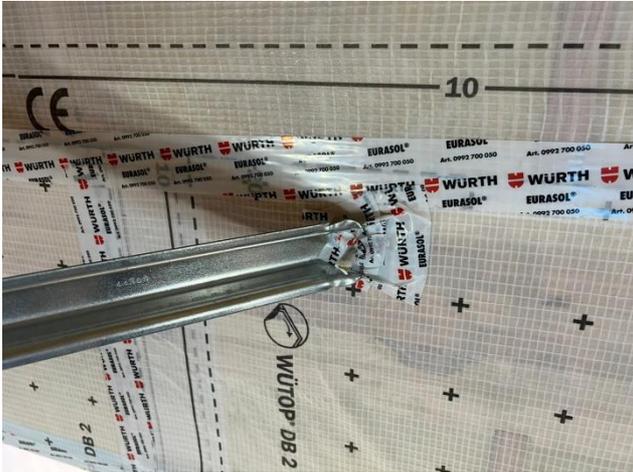


○断熱施工



(仮)南久米パシブハウスでは
壁の中に
100mmのロックウール
ガルバリウム鋼板部には90mmの
フェノール系断熱材
塗り部分には120mmの
EPS断熱材を施工しています
屋根には90mmの
フェノール系断熱材の下に
300mmのロックウールが
施工されています
すき間なく納められた断熱材を
是非見学会にてご覧ください

○気密施工



気密施工で大切なことは
気密層を連続させる事。
断熱がきちっと出来ていても、
空気が抜けるスカスカな家では
断熱の効果が上手に発揮できません
また気密性は施工の良し悪しに
大きく左右されるため
気密シートやテープが隙間なく
ヨレがなくしっかり施工されている
事がポイントとなります



サッシと壁のすき間には膨張パッキンを施工して隙間を無くしていますが
 その上から室内側にはウレタンフォームを施工して更に隙間を無くしていきますこうすることにより断熱性、気密性
 両方の性能を上げることが可能になります

外壁の灰色の壁に張り付いている
 少し黒いものは外貼りの断熱材になります
 基礎に使用している白いEPSと
 種類は一緒ですが紫外線に強くするために
 カーボンを練り込んでいる為に色が違い
 ラムダボードという製品名のものを
 使用しています

(仮)南久米パッシブハウスには
 塗り壁の部分は120mmの
 ラムダボードが外貼り断熱としお家を
 包みこむように施工されています



室内の白い気密シートの上にある木材は
 配線胴縁。

シートの上に胴縁を打つことによって
 シートに穴をあけることなく、
 断熱欠損がないように施工できます
 更に床から500mmの箇所に
 配線を通す用のすき間を設けることで
 配線が通っている箇所が分かる為
 ボードを貼る際配線を傷つけることなく
 施工することが可能となります

